

**Shinrin  
RANGER**

あきる野

菅生地区では、ボランティアによる「森づくり」が進んでいます。多くの方が、自分の都合のつくときに参加しています。新しく参加を希望する人もたくさんいます。ボランテ



ィアの作業とはいえ、森の整備は、チェーンソーなどの危険な道具を使い、伐倒等を行うこととなります。危険が伴う作業は、熟練度と安全に相関があり、チェーンソーを使う参加者に一定のレベルを維持してもらう必要があります。そのため、針葉樹林の間伐を兼ねた伐倒などをしてもらうことがあります。

ここで、間伐材をどのように活用するかが頭の痛いところです。一般的な林業の施業では、間伐材が活用されることは少なく、大半は林内に放置されます。これはこれで、朽木を食べる虫などの餌になり、その虫もアナグマなどの餌になるため、自然の役に立ちます。しかし、この活動では、「なるべく木材を有効に活用したい」と考えていました。そんな時に、菅生大沢地区で散策路を整備しているグループから「散策路の危険な場所に木道を整備したい」との要望が上がってきました。そして、散策路の活動をサポートする形で、間伐材を木道の部材にする作業が始まりました。具体的には、大型のチェーンソーに特殊なアタッチメントをつけて、林内で間伐材を製材し、木道の路面に使う板を作ることになります。

間伐でチェーンソーの腕を磨き、林内で製材して散策路の木道を整備するという形で森の作業が完結する素晴らしいパターンができあがりました。チェーンソーの技能そのものより、このような流れで森を利用している方々は、森の専門家といえます。残念なことは、まだ散策路が全線開通していないため、皆さんに歩いてもらえる状況ではないことです。完成までには、もう少し時間が掛かります。(杉野)